

Case 40-2014

A 57-Year-Old Man with Inguinal Pain, Lymphadenopathy, and HIV Infection

(*N Engl J Med.* 2014 Dec 25;371(26):2511-20)

Problem List

#1 鼠径ヘルニア

10 年前から。容易に還納可能。左 3.8cm、右 1.8cm で脂肪を含む。

#2 圧痛を伴う鼠径部のリンパ節腫大

3 ヶ月前から膨隆に伴う疼痛、3 週間前から膨隆拡大、1 週間前から圧痛を伴う固い腫瘤を自覚。ペインスケール 3/10。左外腸骨リンパ節には壊死が疑われる短軸 2.4cm の低吸収域あり。

#3 発熱

3 週間前から間欠的に寝汗を伴う発熱。受診前夜は体温 38.1°C

#4 HIV

8 年前に診断。ART が導入され、現在 RNA は検出限界以下。CD4 陽性リンパ球数は 250/mm³

#5 カポジ肉腫、伝染性軟属腫、肛門部の異形成、肺 MAC 症、ニューモシスチス肺炎などの既往

トキソプラズマに対する IgG 抗体は 8 年前に陰性。8 年前および 5 年前に行った Rapid Plasma Reagin (RPR) 法による梅毒血清反応も陰性。その他の性感染症の既往はなし。

#6 肝障害

3 年前に一過性。CT では 22cm に及ぶ肝腫大。

#7 脾腫(12.8cm)

#8 22 歳のネコを飼育

猫用のトイレを交換するなど濃厚な接触歴あり。

#9 6 ヶ月前のオクラホマへの旅行歴

● 鑑別診断を挙げて下さい。